

かがみあき



平成27年
12月11日発行
No.137

オリンピック・パラリンピアンと 交流しました!

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とし、本区教育委員会はオリンピック・パラリンピック教育を推進するためさまざまな取組を行っています。これは、オリンピック・パラリンピック教育を通じて国際性を育み、スポーツに親しみとともに伝統文化を学ぶなどの幅広い教育活動を行うものです。その中でも今号では、各学校・幼稚園におけるオリンピック・パラリンピアンとの活動に注目しました。



山本篤選手(明正小学校)



藤井瑞希選手(佃中学校)



香西宏昭選手(中央小学校)



寺川綾選手(明正小学校)



小野淳子選手(有馬幼稚園)

オリンピック・パラリンピック講演会

子どもたちとオリンピック・パラリンピアンとの交流の様子

挑戦すること・あきらめないこと

明正
小学校



6月8日(月)、明正小学校に北京パラリンピック走り幅跳び銀メダリストの山本篤選手が来校されました。「大切なことは、挑戦すること・あきらめないこと」との力強いメッセージを子どもたちに伝えていただき、走り方指導の後、実際に児童と競走をして、迫力のある走りを披露してくださいました。

夢に向かって 努力し続けること

中央
小学校

7月8日(水)、中央小学校にプロ車椅子バスケットボールプレーヤーで北京ロンドンパラリンピック日本代表選手の香西宏昭選手が来校されました。香西選手は、夢に向かって努力を続けることの大切さを話され、実技体験では車椅子での機敏な動きを披露してくださいました。

※その後、10月11日(日)に中央小学校の子どもたちが応援に駆けつけたアジアオセアニア選手権で、香西選手は多くの得点に貢献し、リオデジャネイロパラリンピックの出場権を獲得しました。

たくさんチャレンジし、 たくさん失敗すること

明正
小学校



7月13日(月)、明正小学校にロンドンオリンピック100m背泳ぎメドレーリレー銅メダリストの寺川綾選手と、メドレーリレー銅メダリストの加藤ゆか選手・上田春佳選手、そして200mバタフライ代表の金田和也選手が来校されました。講演会では皆さんからオリンピックへの出場が決まった時の気持ちや、オリンピックを通して得られた経験などを話してくださいました。

自分で決めたことを 毎日続けること

佃
中学校

6月15日(月)、佃中学校にロンドンオリンピッククバドミントンダブルス銀メダリストの藤井瑞希選手が来校されました。講演会では、自らが幼い頃から上達していくために気づいたこと・意識したことやペアで出場した垣岩選手との関係についても話してくださいました。



佃
中学校

苦手なことでもがんばること

有馬
幼稚園

9月8日(火)、有馬幼稚園にバルセロナオリンピック200m背泳ぎ代表の小野淳子選手が来園されました。小野選手は、初めは水が苦手であったことや選手村での体験などを話された後、教室内で背泳ぎの指導をしてくださいました。小野選手の出場した大会のビデオ鑑賞では、子どもたちからたくさんの声援が寄せられました。



本誌はホームページで平成14年度分からご覧いただけます。

今号のトピックス

- P4 PTA連合会成人教育委員会講演会「上手な怒り方～アンガーマネジメントとは～」
- P2 理数教育推進に関する協定締結記念講演
- P8 オリンピック・パラリンピック講演会
- P3 中学生海外体験学習事業

上手な怒り方 ～アンガーマネジメントとは～

10月16日(金)、中央区役所8階大会議室にて、PTA連合会成人教育委員会が開催され、一般社団法人日本アンガーマネジメント協会理事の小林浩志さんによる、「上手な怒り方」アンガーマネジメントとはの講演会が行われました。PTAの方々約70名が参加し、グループワークを交えながらアンガーマネジメントについて学びました。



小林浩志さん
一般社団法人日本アンガーマネジメント協会理事。社会保険労務士。アンガーマネジメントを多くの企業、公共団体、大学・高校、病院、スポーツチームへ紹介。2014年だけでも講演回数82回、トータルで約4000人の方に講演を行う。「パワハラ防止のためのアンガーマネジメント入門」(東洋経済新報社)ほか、著書多数。

アンガーマネジメントという言葉をご存じでしょうか。皆さんの心の中にコップがあると想像してください。コップには少しづつイライラの水が溜まっていき、これがあふれると怒りとして発現します。アンガーマネジメントとは、この「コップの水を抜こう」「コップを大きくしよう」というトレーニングです。

そもそも怒りとは、人間の自然な感情なので怒りのない人はいません。そして怒りの感情は、扱いを誤ると大きな損害を出してしまうことがあるので、これをコントロールする必要があります。怒らなければいけないときに上手に怒り、怒らなくてよいときには怒らない、これがアンガーマネジメントの大前提です。

アンガーマネジメント「3つの暗号」

怒りをコントロールするためのトレーニングとして、次の「3つの暗号」を紹介します。

●6秒間衝動のコントロール

怒りの感情がピークを迎えるのは、カチンときた直後、アドレナリンが多量に分泌される6秒の間です。ゆっくり数を数えたり、深呼吸したりしてやり過ぎを避けましょう。また、人生最大の怒りを10としたとき今の怒りはどの程度だろうか?と数値で怒りのサイズを客観視する「スケールテクニック」も効果的です。

●三重丸思考のコントロール

怒りの感情は、「こうあるべき」という願望と現実に起きていることとの間にギャップがあると生じます。自分の「べき論」の許容範囲を広げる努力をしましょう。相手と話し合い、お互いに「擦り合わせ」をすることが大切です。さらに、相手の長所を見つけようという思考パターンを身につけるのもよいでしょう。

●分かれ道行動のコントロール

ある事象が起きたとき、それは怒れば変えられることか、怒っても変えられないことかを見極めます。そして変えられないことなら、具体的・現実的な対処策を決定します。怒る場合は、「いつ・どうやって・どの程度」怒るかを決めます。

上手な怒り方

怒りは身近な人たちへ強く向けられます。それはコントロールできる相手という思い込みから来るものですが、厄介なのは、夫から妻、母から子ども、子



どもから同級生、同級生から年下の子や小動物へ、という具合に怒りは連鎖することです。お子さんを叱るときは、左記のポイント「かりてきたねこ」に気をつけましょう。「いつも」「絶対」「必ず」は、自分の怒りを正当化するための不正確なワードなので使わないよう心掛けてください。

かりてきたねこ
感情的にならず理由を話す
……手短かに
……キャラクター(人格)に触れず
……他人と比較しない
……根にもたず
……個別に叱る



(出典:折れやすい部下の叱り方 渡部卓 日本経済出版社)



おやじの出番! 第3弾

お父さんと作る! ハロウィンパーティーメニュー

今回の父親の子育て参加を応援する「おやじの出番!」は、本区を中心に4歳〜小学生を対象とした食育教室を定期的に開催している「食育キッズ」と、中央区地域家庭教育推進協議会の共催で「お父さんと作る!ハロウィンパーティーメニュー」を開催しました。10月31日(土)のハロウィンの日に11組22名の親子が参加し、最初に「ハロウィン」についてのお話を聞いて、「ジャック・オランタン」のパンキンパイと「ハロウィンおぼけのスノーボール」を作りました。3時間かけて個性豊かなお菓子が焼き上がり「やってみたら意外と簡単。」楽しかった。このような機会をまた作って欲しい。「家に持ち帰ってお母さんに食べてもらいたい。」などいろいろな感想がありました。普段料理を作る機会が少ない父親と一緒に料理をすることで、親子の距離を近づけ、家族で食卓を囲む楽しさを知っていただく良い機会となりました。



問合せ先 中央区地域家庭教育推進協議会事務局(区民部文化・生涯学習課内) ☎(3546)5526

ボリス市長が来日されました

10月15日(木)、イギリスのロンドン市長であるボリス・ジョンソン氏が、京橋の東京スクエアガーデンを訪れ、日本橋発祥のスポーツ「STREET RUGBY」を体験されました。

ボリス市長は、出迎えた有馬小学校4年生の児童や地域の方々に、笑顔で応えられました。日本のトップリーグで活躍するラグビー選手の方々によるデモンストレーションが行われた後、ボリス市長と一緒にSTREET RUGBYを体験した有馬小学校の児童は、少し緊張した様子でしたが、貴重な機会を楽しんでいました。



レセプションで挨拶するボリス・ジョンソン市長(左から2人目)

こども電話相談

区立教育センター教育相談室では、こども電話相談を実施しています。

何か困ったことや、誰にも相談できなくて悩んでいることはありませんか?

そんな時は電話をしてください。一人で悩まず、一緒に考えましょう。

家庭や学校での生活に悩みがある。

友達とうまく遊べない。仲間外れにされる。

誰に相談していいかわからない。

など、どんなことでも大丈夫です。

☎(3545)9203

【相談できる日】月曜日～土曜日(祝日を除く)

【時間】午前9時～午後5時

小学校・幼稚園の増・改築工事の状況について

●月島第三小学校等複合施設増築及び大規模改修工事

児童の増加に対応するため、既存校舎の上部に増築を行います。
また、複合施設全体の設備機器をはじめとした機能更新のため、内部改修工事も併せて行います。

工期 平成27年10月16日(金)～平成30年2月28日(水)(予定)

●豊海小学校・同幼稚園改築工事

平成27年度末に完成を予定していましたが、大規模な地中障害による工期の延伸により、平成28年8月末の完成を目指しています。こうした中、10月19日(月)・20日(火)・22日(木)に開催された児童向けの工事現場見学会では、普段近くで見ることのない工事現場を興味津々に見学し、新校舎の完成を楽しみにしていました。

工事現場見学会の様子



中央区の教育に関する点検・評価(平成26年度分)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

本区教育委員会は、法に基づき、より充実した教育

行政の推進のために、「点検・評価」を実施し、報告書を作成しました。

区役所1階情報公開コーナーと6階教育委員会で閲覧できます。また、区のホームページにも掲載していますのでご覧ください。

問合せ先 庶務課教育行政推進係 ☎(3546)5504

教育委員会の主な活動状況(平成27年9月11日～平成27年12月10日)

- ◆連合陸上競技大会 9月17日(木)江戸川区陸上競技場
- ◆海外中学生受入れ式 9月23日(水)教育センター
- ◆早稲田大学理工学術院 理数教育に関する協定締結記念講演 9月24日(木)明正小学校
- ◆海外中学生区長表敬訪問 9月28日(月)
- ◆区民スポーツの日 10月12日(月)月島運動場ほか
- ◆子どもフェスティバル 10月18日(日)浜町公園、浜町運動場ほか
- ◆第10回定例会および研修会 10月21日(水)
- ◆教育委員会管外視察 10月27日(火)・28日(水)富山市、長野市
- ◆泰明小学校研究発表会 10月30日(金)泰明小学校
- ◆各種功労者表彰式 11月3日(火)銀座プロッサム
- ◆月島幼稚園研究発表会 11月5日(木)月島幼稚園
- ◆第11回定例会および研修会 11月11日(水)
- ◆人権尊重教育推進校研究発表会 11月12日(木)佃中学校
- ◆月島第三小学校・晴海幼稚園周年記念式典 11月14日(土)月島第三小学校
- ◆還暦のつどい 11月23日(月)銀座プロッサム
- ◆小学校連合音楽会 11月26日(木)銀座プロッサム
- ◆中学校連合音楽会 12月1日(火)銀座プロッサム
- ◆教育会研究発表会・小学校 12月2日(水)中央小学校
- ◆京橋築地小学校研究発表会 12月4日(金)京橋築地小学校
- ◆職員表彰式 12月7日(月)銀座プロッサム
- ◆第12回定例会および研修会 12月9日(水)

教育委員会視察

富山市、長野市の教育を学ぶ

本区教育委員会では、先進的な施策・教育活動を行っている自治体や学校を訪れ、施策の取組内容等について視察を実施しています。本年度は、小中連携に力を入れる富山市と、オリンピック・パラリンピックを契機とした二校二国運動に取り組み長野市を訪れました。本区教育委員会においての今後の教育施策の推進について考える有意義な視察になりました。

富山市教育委員会・富山市立堀川小学校
〈小中連携を中心とした学力・指導力の向上と児童の発言を中心とした授業〉

長野市教育委員会・長野市立西部中学校
〈オリンピック・パラリンピックを契機とした一校二国運動の取組〉

富山市教育委員会では、小中連携を中心とした学力・指導力の向上を目指すため、市の学力調査の結果を学習指導の改善・充実に生かしていました。特に、4月の入学当初に行った中学校二年生の調査結果を出身小学校へ送付していることです。送付した結果が小学校での今後の学習・指導方法に活用されるという仕組みづくりがとて画期的でした。

学校での小中連携の活動としては、合同の挨拶運動や、中学生が主体となって、小学生、保護者、地域の方で清掃に取り組み活動を実施していました。これらの活動は児童・生徒のキャリア教育や相手の成長を確かめ合う機会の確保の点で貴重な機会であると感じました。授業は、児童の発言を中心として展開されていました。児童の「話す力」はもとより「相手の話を聞く力」の育成や、相手の話を聞きながら自分の返答を考えて「的確に質問する力」を問近で見学することができました。



長野市教育委員会では、1998年の長野オリンピック・パラリンピックを契機とした二校二国運動の立ち上げの経緯や当時の課題、成果についてお話を伺いました。二校二国運動とは、オリンピック・パラリンピック参加国などの風土や文化を学びながら学校を挙げて

参加国を応援するという運動で、当時は、市内75校で72の国や地域を応援しました。市教育委員会では、この運動を学校生活における児童生徒の直接的な国際経験の機会として捉え、独自性・自主性を尊重した学習を全校で実施してきました。

現在でもトルコ・タンブナル校との交流が続いている西部中学校からは、実際の活動の様子についてのお話を伺いました。交流する中で「一番大変なことは「継続すること」」。交流の大切さや感謝の気持ちを日々忘れずに継続することにより、仲間と関わることの大切さや地域の方々の協力のありがたさ、工夫された授業づくりなどにつながっていくのです。当時の熱い思いがひしひしと伝わってくる貴重な機会を頂戴しました。